

新規事業評価調書

【漁場整備開発事業】

南淡路海峡阿那賀地区

農政環境部
農林水産局水産課

事業評価調書（新規）

事務所名 (課名)	農政環境部 農林水産局 水産課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	水産課長 近藤 敬三 (漁場整備班長) (山下正品)	内線	4149 (4163)
--------------	-----------------------	---------------------	----------------------------------	----	--------------------

事業種目	漁場整備開発	事業名	事業区間	総事業費	3.2億円	
		増殖場造成事業	南淡路海峡阿那賀地区	内用地補償費	— 億円	
所在地				事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
南あわじ市阿那賀地先				H27	H27	H30
事業目的			事業内容			
<p>当地区は、古くから一本釣りや刺網、小型定置網等の漁船漁業やワカメ養殖業が盛んに営まれ、水産業が基幹産業のひとつとなっている。</p> <p>また沿岸部は天然の岩礁域や藻場が点在し、水産生物の産卵場や育成場所となっているほか、鳴門海峡を行き来する魚類の回遊ルートにもなっている。</p> <p>このことから、増殖場整備により水産生物の再生産の場となっている天然の岩礁域や藻場の拡大を図り、当海域の水産資源の底上げと漁業生産の安定を図る。</p>			<p>対象生物：メバル、カサゴ、マコガレイ タイ類、スズキ等</p> <p>事業量：27.0ha</p> <p>事業主体：兵庫県</p> <p>事業費内訳：国:50%，県:50%</p>			
評価視点	評価結果の説明					
(1) 必要性	<p>本地区は、一本釣りや刺網、小型定置網等の漁船漁業やワカメ養殖業が盛んに営まれ、水産業が基幹産業のひとつとなっている。</p> <p>また沿岸部は天然の岩礁域や藻場が点在し、水産生物の産卵場や育成場所となっているほか、鳴門海峡を行き来する魚類の回遊ルートにもなっている。</p> <p>このことから、増殖場整備により水産生物の再生産の場となっている天然の岩礁域や藻場の拡大を図ることは、当海域の水産資源の底上げと漁業生産の安定を図るうえで必要である。</p>					
(2) 有効性・効率性 (執行環境状況)	<p>費用便益比 B/C = 1.6</p> <p>地元及び関係漁業者からの要望も強い。</p>					
(3) 環境適合性	<p>増殖場造成により、水産生物の再生産の場として重要な岩礁域や藻場が造成されることによって、生息する生物の種類や量の増加が図られ、周辺海域の水産生物の生息環境の創造が期待される。</p>					
(4) 優先性	<p>本事業の効果は淡路島南部海域の広範に波及されることから事業の優先性は高いと判断される。</p>					

増殖場造成事業(南淡路海峡阿那賀地区)

事業概要

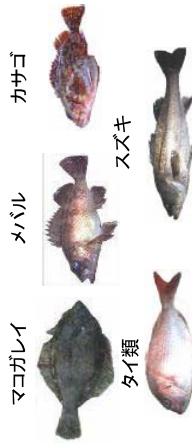
1. 事業の目的

- ・ 水産生物の産卵場や育成場となっている岩礁域や藻場の拡大
- ・ 水産生物の資源増大と漁業生産の増大と安定

2. 事業の内容

- ① 実施地区: 兵庫県南あわじ市阿那賀地区
- ② 実施年度: 平成27年度～平成30年度
- ③ 総事業費: 3.2億円
- ④ 施設規模: 約27ha (自然石、コンクリート魚礁、鋼製魚礁)
- ⑤ 増産期待量: 45トン
- ⑥ 費用対効果: 1.59

対象魚種: マコガレイ、メバル、カサゴ、タイ類、スズキ等



期待される効果

① 水産生物の産卵場や育成場となっている岩礁域や藻場の造成



石材に繁茂する藻類



石材(岩礁域)に集まる魚類

② 幼稚魚、未成魚の保護・育成による資源の増大



藻場を遊泳するメバル



コンクリート魚礁内部に集まるメバル



鋼製魚礁近くを遊泳するスズキ・イサキ

造成箇所

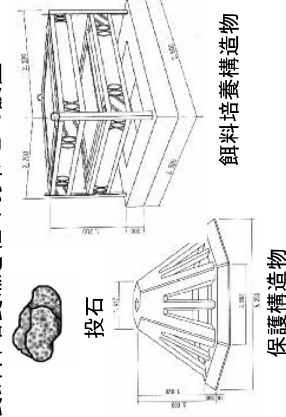
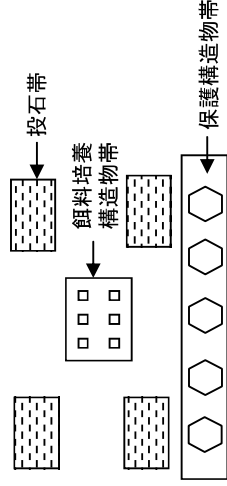
環境条件:
水深 15m未滿
底質: 砂礫



造成計画の基本的な考え方

- ・ 水深15m未滿に設置(藻場造成に主眼)
- ・ 投石(自然石)と保護構造物(コンクリート魚礁)、鋼製餌料培養礁を組み合わせて設置

配置・構造物のイメージ



工程表

	H27	H28	H29	H30	備 考
測量、環境生物調査	→				必要に応じて実施
増殖場造成		→			

B/C根拠説明資料

便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
漁場	①漁獲量増大による便益 増殖場造成海域で成育した対象魚種の漁獲量・金額	増殖場の単位面積当たりの対象魚種の増産量×造成規模
	②流通量の増大による便益 流通過程における付加価値効果	(消費地価格－産地市場価格)×流通量

費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		C 総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	B /C
		便益額 (百万円)	代表的な効果				
漁場	南淡路海峡阿那賀地区増殖場造成事業	①漁獲増による便益	25	290	320	0	1.6
		②流通量増による便益	6				
		計 (総便益額)	31 (461)				

※ 総便益、総費用とも平成26年を基準年として現在価値化した額の分析対象期間中の合計。

※ 社会的割引率は4%、分析対象期間は事業完了後30年。